

「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

横浜市地域セミナー 報告書

2019（令和元）年5月17日（金）に、「スポーツ庁 オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」横浜市地域セミナーが開催されました。当日は、今年度の推進校の先生方29名に参加いただき、下記の要領で行われました。

【開催概要】

日時：2019（令和元）年5月17日（金）15時00分～16時45分

会場：花咲研修室 205 会議室

主催：横浜市教育委員会事務局、早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター

参加者：29名

プログラム：

15:00～15:05 開会挨拶
横浜市教育委員会事務局 学校教育企画部 小中学校企画課
主席指導主事 木村 典明 氏

15:05～15:25 事業概要等について
横浜市教育委員会事務局 学校教育企画部 小中学校企画課
主任指導主事 栗田 高広 氏

15:25～15:30 予算の配当及び執行事務手続き等について
横浜市教育委員会事務局 学校教育企画部 小中学校企画課
漆畑 優紀 氏

15:30～15:50 他地域の取り組みについて
早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センター
研究員 岡田 悠佑 氏

15:50～16:00 パラ競技普及啓発メニューについて
横浜市市民局

16:00～16:25 情報交換会

16:25～16:30 質疑応答

開会行事では、横浜市教育委員会事務局の木村氏より挨拶がありました。続いて、横浜市教育委員会事務局の栗田氏より、本事業の背景や概要についての講義が行われました。横浜市は、オリンピック・パラリンピック競技大会の会場もあり、事前キャンプ地にもなっていることから、本事業を通してスポーツの価値への理解を深め、さらには規範意識の涵養、国際・異文化理解、共生社会への理解等の深まりを狙いとして本事業を推進していくことが示されました。また、昨年度の実践の中でも、特に積極的に取り組んでくださった実践例を紹介しながら、今後の方針についても説明が行われました。



木村氏の挨拶



栗田氏の講義

次に、早稲田大学オリンピック・パラリンピック教育研究センターの岡田悠佑より、オリンピック・パラリンピック教育の実践の推進方法についてこれまでの実践例や教材紹介も含めて説明が行われました。本事業がオリンピック・パラリンピック競技大会後にレガシーを残すことを目標としていることから、無理のない範囲で計画性・継続性をもった取り組みを実施していくことの重要性について説明がありました。そして、そのような取り組みを行うためにも、「オリンピック・パラリンピック教育指導参考資料」（スポーツ庁）や「I'mPOSSIBLE」（JPC、パラリンピックサポートセンター）等のオリンピック・パラリンピック教育用教材を積極的に活用して、簡易かつ効果的な実践を目指してほしい、ということでした。また、今年度から推進校の児童・生徒を対象としたアンケート調査を実施するというので、実施方法についての説明も行われました。

次に、横浜市市民局のオリンピック・パラリンピック推進課の方から、本事業でも活用できる「パラリンピック競技普及啓発メニュー」の紹介がありました。具体的には、「ゆるスポーツ体験プログラム」、「支える人を知るプログラム」、「パラスポーツ観戦プログラム」、「パラスポーツ体験及びパラアスリート紹介」の4つのプログラムが紹介されました。また、市民局からは、「東京五輪音頭 2020」のDVDとCDも配られました。



岡田悠佑研究員の講義



市民局の方の情報提供

最後に、推進校の担当者同士で情報交換会が行われ、今後の推進方法や進捗状況等について活発な議論が行われました。本事業において特に重点的に取り組むテーマごとに分けられた各グループには、昨年度から本事業に参画している継続校の担当者が1名以上おり、情報交換の円滑な進行に貢献している様子が見られました。また、グループワーク後の質疑応答では、講師となるアスリートの手配の手順や事前・事後指導の具体的な実践方法、さらにはアンケート調査の結果の公表の方法等について質問がありました。特に、推進校の先生方が難しさを感じているアスリートの手配に関しては、スポーツ関連団体に依頼する方法や知人・同僚のつながりを活用して依頼する方法、さらには直接交渉をする方法等が示されました。